

第2章 計画地の現状

第1節 郡山城跡周辺の自然的環境

(1) 位置

史跡郡山城跡が所在する大和郡山市は、奈良県の北部、奈良盆地の北西部に位置する、東西約9 km、南北約7 km、面積が約42.68km²の都市である。北は奈良市、東は天理市、西は生駒市と斑鳩町、南は安堵町と川西町に接している。

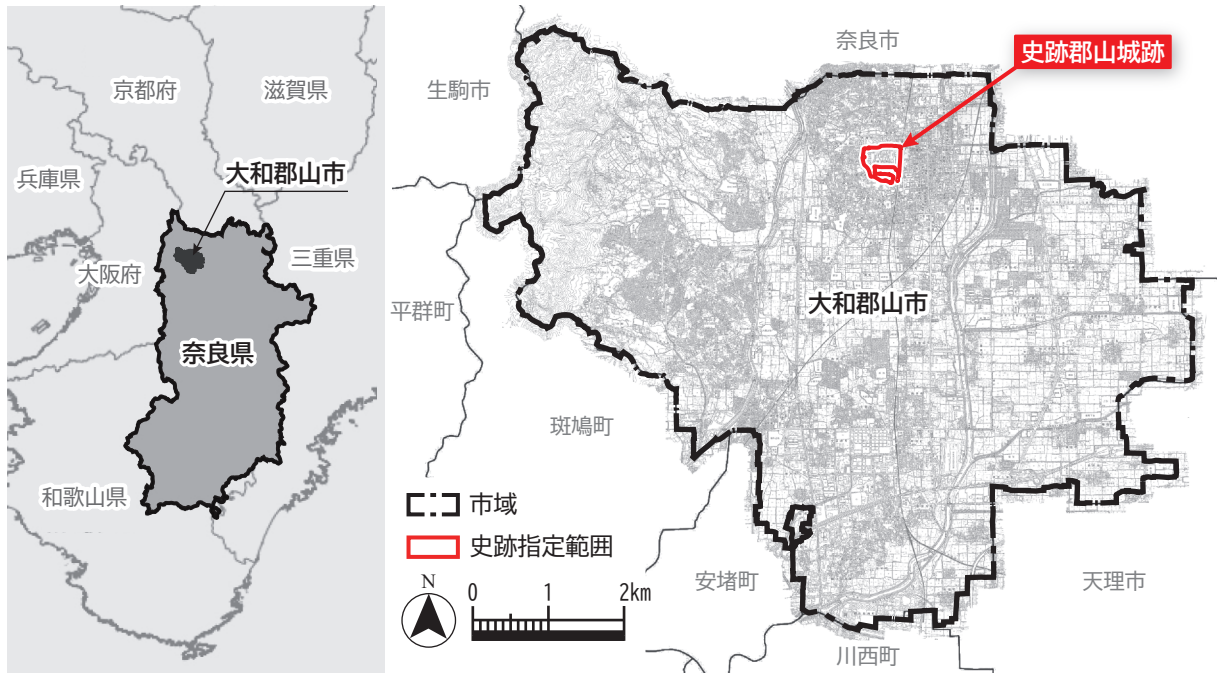


図 2-1 大和郡山市の位置 (県域 S=1/2,500,000・市域 S=1/100,000)
※地理院地図(国土地理院)をもとに作成

(2) 地形

大和郡山市は、市域の西部が奈良盆地を限る丘陵地である矢田丘陵とその東麓に位置し、その他の大部分は平野である。平野部は標高40～57 mで、市域の南に向かって緩やかに標高を減じている。市域の中心を大和川水系の佐保川と富雄川が南流する。両河川ともに市の南縁辺部で奈良盆地南部からの水を集めた大和川と合流して、大阪方面へと流れている。

矢田丘陵は、本市の西縁を限る標高約300 mの南北方向の丘陵である。市南西部の松尾山を境に南方に向かって標高が急激に下がり、斑鳩町法隆寺や龍田付近で平野部にいたる。丘陵の東縁部には砂礫台地や谷底低地が派出し、起伏に富む入り組んだ地形を形成している。

矢田丘陵の東には、並列して南北方向にのびる西ノ京丘陵がある。大阪層群からなる標高100 m前後の小高い丘陵地で、市域の中心付近で標高を減じて平野部にいたる。

佐保川は市域を南北に貫流する河川である。春日山東方山地を発して市域にいたり、本市域内でも東山中を発した大小の河川が流れこみ、市の南端部で流れを西に変えて大和川に合流する。両岸には氾濫原がひろがり、市域の大部分は本河川による緩傾斜扇状地上に位置している。

富雄川は矢田丘陵の東辺に沿って南流する河川である。市の北方にある生駒山地より発し、両岸には氾濫原がひろがる。かつては市の中心付近を東流して佐保川に達する流れもあったとみられるが、現在はほぼ直線的に南流して大和川に合流する。

市域の南端部に位置する標高50 m前後の平端台地は、低平な台地ながらも市域南部の比較的平坦な地形の中で注意深い地形の変化をあたえている。

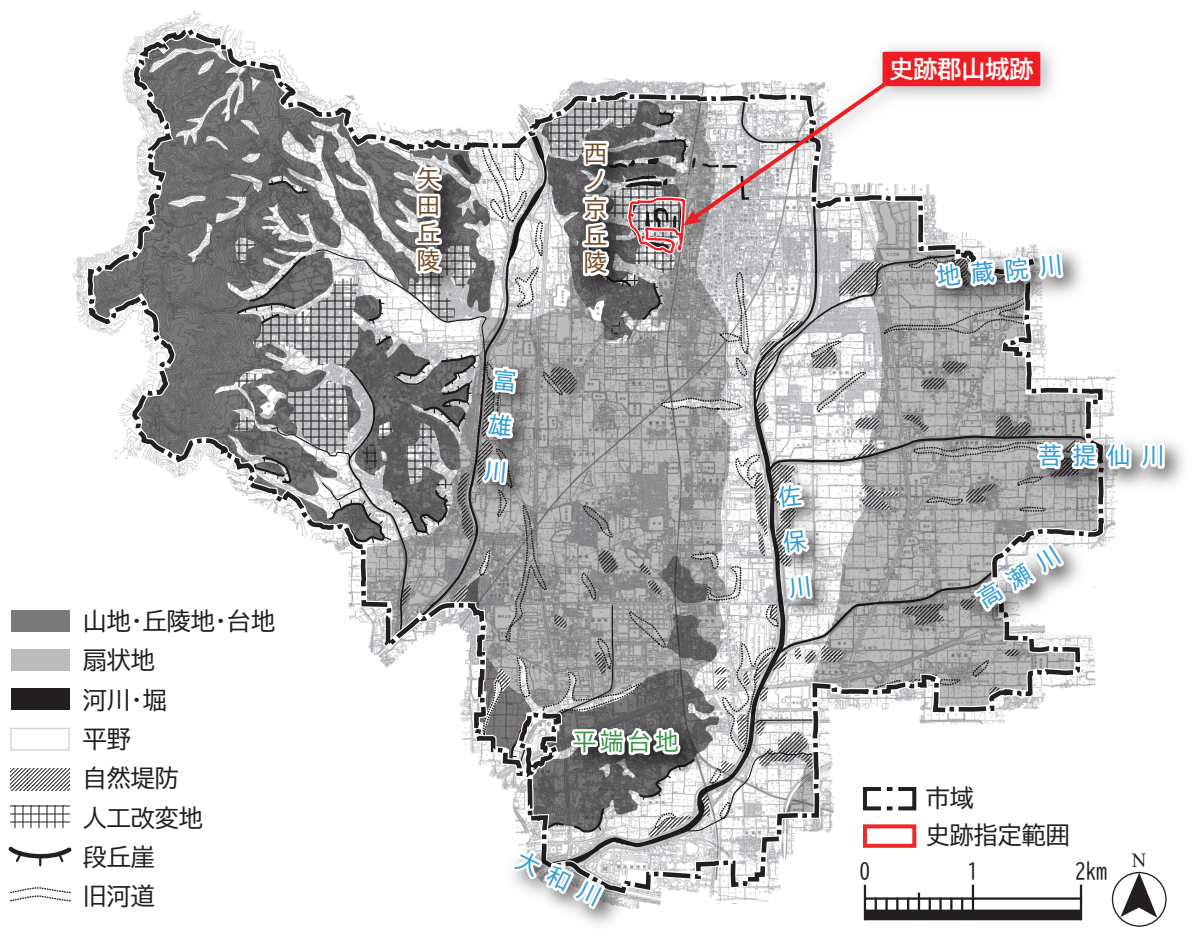


図 2-2 大和郡山市の地勢 -1

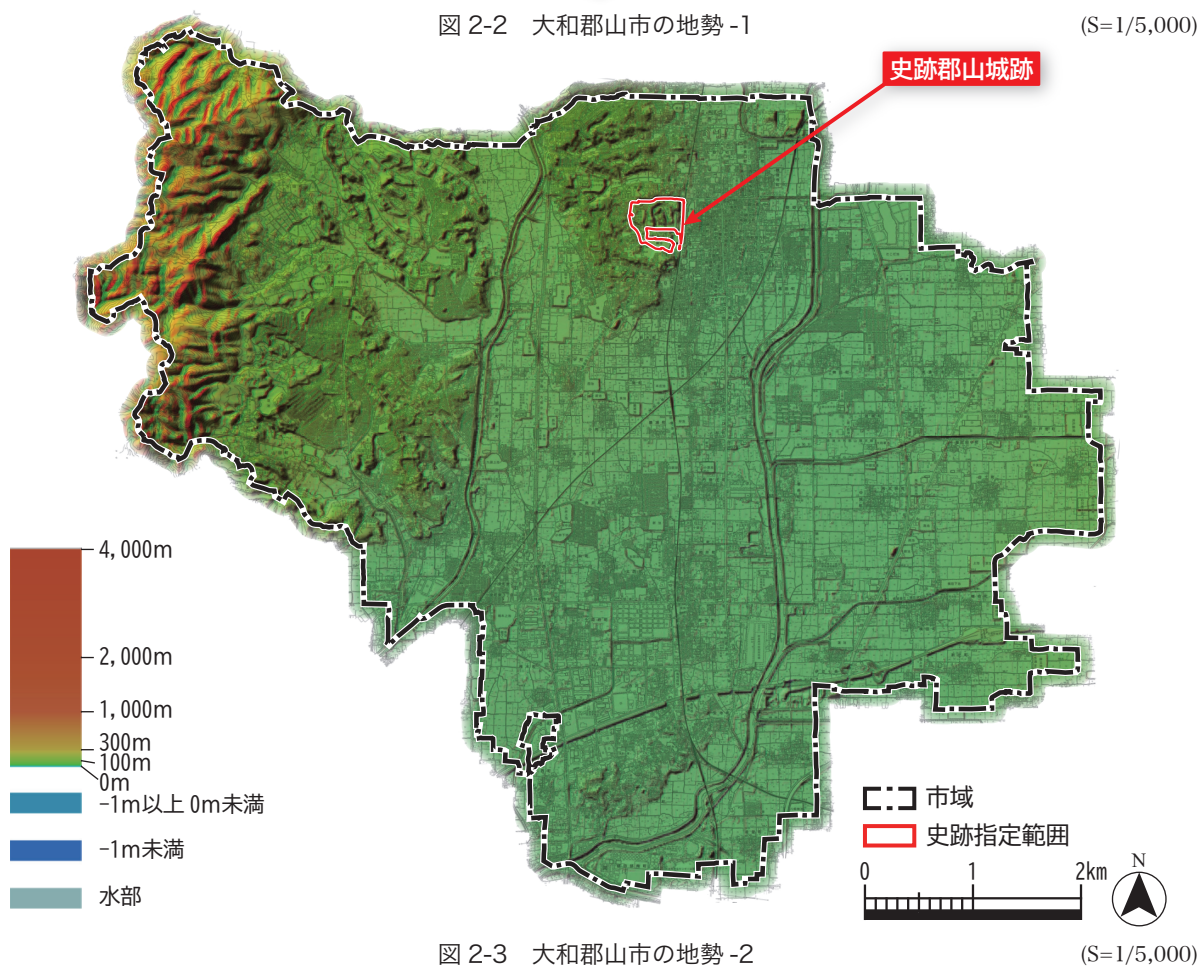


図 2-3 大和郡山市の地勢 -2